

## 扶助者聖マリアのノヴェナ

9日目（5月23日 日曜日）

聖ヨセフのように命を守る。

「すべてのいのちを守るため」

ヨセフの姿と役割

「ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ」（マタイ 1:24）

「ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダのベツレヘムへ上って行った。身ごもっていたマリアと一緒に登録するためである」（ルカ 2:4-5）

「ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り」（マタイ 2:14）

「ヨセフは起きて、幼子とその母を連れて、イスラエルの地へ帰って来た」（マタイ 2:21）

「なぜこんなことをしてくれたのです。御覧なさい。お父さんもわたしも心配して捜していたのです」（ルカ Lc.2:48）

### <分かち合い>

松戸：「聖ヨセフの年」にあたって、家にあるご絵、ご像はありますか？と言う、アンヘル神父様の問いかけに、家の中を探してみました。ドン・ボスコ、扶助者聖母マリアのおメダイやカードは、たくさんありますが、聖ヨセフに関しては見つかりません。今まで頂いた記憶もありません。

ただ亡き実家の父の霊名がヨセフでしたので、天国の父のために祈る時は、必ず聖ヨセフにも祈ってきました。そんな中、クリスマスの馬小屋セットに聖ヨセフのご像があるのを思い出しました。

12cm程の小さな像ですが、早速、扶助者聖母マリア像の隣りに並べました。目に入る場所に居て下さるともっと身近な感じがします。きっと主に取り付けて下さり私たち家族を守って下さると信じています。（足立）

碑文谷：ヨセフ様は、非常に謙遜な方です。聖書の中でも、ヨセフ様の記述は、ほとんどありません。それ故、隠れた偉大な大聖人です。

マリア様の処女性を守り、イエズス様の養育、命を守られた方、ヨセフ様の忠実な守護の元に、マリア様もイエズス様も生きる事が出来たのです。また、ヨセフ様は、幸いな死を願える方でもあります。イエズス様とマリア様に見守られて、この世を旅立たれた方です。ヨセフ様ほど、幸せな臨終を迎えられた方は、いらっしゃいません。

ならば、私達は、産まれた時から、なくなるまで、ヨセフ様の保護を願い守ってまいりましょう。（山本）

土浦：ヨセフ。亡父の洗礼名です。大工仕事が好きだったこと。口数少なく温厚だった父に相應しいと思って付けた洗礼名です。父の大きな働きのおかげで星美学園に通うことができました。ありがとうございます。感謝。

今、家の中でヨセフ様の御像がありますか？と問われたとき、目に見えるのは降誕の時の飼い葉桶のそばにイエズス様に寄り添うヨセフ様とマリア様の御像、あとはカードが数枚あります。やさしく見守る姿はとても印象的で心が癒やされます。（江口）

調布：ヨセフ様の生き方は、まず神様の声を聴き、自分の事はわきに置いて、母と子を守るためには訳の分からない現実に対しても、神様から告げられたことを実行された方だと思えます、与えられた生活の中でつま

しく生活し、隣人を大切に、愛することの意味を後ろ姿でイエスに教えられたのではないかと感じます。母と子を守り、神様の計画を受け入れ、ご自分の使命を成し遂げられたヨセフ様。願い事がある時はヨセフ様の足元に書いておくといいと、かつて、どなたかの神父様に伺ったことがあります。優しく頼りになるお方です。（藤永）

浜松：

私の父は、仕事柄、海外や京都に行ったり、病気で入院していたりして、あまり家におらず、たくさん話をした記憶がありません。そのまま父は亡くなって、今17年経ちました。

先日GWの休みを使って片付けをした時に、父のノートが出てきました。

僧侶であった父ですが、今（当時）の日本がどうしてこうなってしまったか、宗教がどのように人々の暮らしを支えられるか、などが走り書きで書かれていました。

この話は今の私にだからこそ、刺さった話でもありました。

生きている時、親子の対話はあまりなかった、ましてや信仰や宗教の話もしたことがありません。もっと話をしてみたかったとっていました。それでも父の遺品を母が残してくれていたもので、父と思いを揃えることができました。

たまたま見つけたもので、今まで開くことがなかったノートを開くタイミングも面白い運命だったと思います。

父は、関わった人たちにとって、何かの道標を示していたのかもしれない。

そして、私にはいつも道を示してくれる人がいてくれる人生でした。父も、こうやって亡くなった後に私の前に現れてくれました。

その現れた道を素直に受け入れていくことができれば、私も誰かに道を示せる者になれるかもしれません。

（岡部詩奈子）

## <扶助者聖母マリアのご像の紹介>

1953年、ニューヨーク管区のフランシスコ会が高崎と館林に小教区を設立しました。

現在の館林教会の聖堂は、1957年10月17日に献堂されました。

玄関を入ると扶助者聖マリアに出会います。2011年3月11日の東日本大震災で、この御像が落下、冠の一部が欠けてしまいました。その後、台に固定されたようです。

私が初めてこの御像に会った時、マリア様の左の頬にシミがありました。全体的に汚れているような感じで、きれいな元の姿を取り戻す必要があります。

ここに来て、扶助者聖マリアに出会ったことは驚きで、そして珍しく思いました。マリア様はここで何をなさりたいのでしょうか。

ドン・ボスコの言葉を思い出しました。「これは私の家、ここから栄光が放たれる。」

去年の復活の後、こちらに赴任しました。しかし、新型コロナウイルスのため、様々なことが進まない、動かない日々でした。ミサなし、行事なしの期間が続いています。先月から少し動き動き始めました。4つの言語共同体の人たちとの最初の話し合いがありました。日本、フィリピン、ベトナム、ブラジル。5月、お祝いに向けて、庭の奥にあるルルドをきれいにし、祈りの場所に整える作業が始まりました。ベトナムの若者たちが喜びと兄弟愛をもって、この作業に取り組んでいます。

何が始まろうとしているのでしょうか。マリア様のなさることだから、ここはきっと、みんなが喜びをもって集える場所になるのではないのでしょうか。



## 聖ヨセフへの祈り

聖ヨセフよ、マリアの夫であり、救い主イエスの保護者よ、  
私は信頼をもってあなたによりすがり、  
靈的物資的な取り次ぎを心から願います。  
生きているかぎりあなたの徳にならい、  
死が訪れるときに永遠の喜びに与れますように、  
あなたの助けをこい願います。アーメン。

## すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り

宇宙万物の造り主である神よ、  
あなたはお造りになったすべてのものを  
ご自分の優しさで包んでくださいます。  
わたしたちが傷つけてしまった地球と、  
この世界で見捨てられ、忘れ去られた人々の叫びに  
気づくことができるよう、  
一人ひとりの心を照らしてください。  
無関心を遠ざけ、  
貧しい人や弱い人を支え、  
ともに暮らす家である地球を大切にできるよう、  
わたしたちの役割を示してください。  
すべてのいのちを守るため、  
よりよい未来をひらくために、  
聖霊の力と光でわたしたちをとらえ、  
あなたの愛の道具として遣わしてください。  
すべての被造物とともに  
あなたを賛美することができますように。  
わたしたちの主イエス・キリストによって。  
アーメン。

(2020年5月8日 日本カトリック司教協議会認可)

## <祝福>

チマッティ神父様のアベマリア

